

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1293200067		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら当代島(1F)		
所在地	千葉県浦安市当代島2-22-29		
自己評価作成日	令和2年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和2年9月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今期スローガンを「MORE SMILE～笑顔あふれるあたたかな支援～」とし、昨年度に引き続き、ご利用者が安心して過ごせる居場所づくりを目指し、より多くの笑顔がみられるように取り組んでいます。コロナ感染症の影響で、外出や地域活動への参加・ボランティアさんにきてもらうことができなくなっていますが、ご利用者の体力・気分低下に繋がらないよう、感染症予防に配慮しながら、毎日一日一回の散歩は今まで通り行っています。また、日々の支援においても、しっかりとした日課の元、ご利用者に適した支援を行えるようスタッフ同士がコミュニケーションを密にし、情報共有を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設10年を迎え、地域とも良好な関係を築き運営を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、これまで前向きに取り組んできた地域との関りや外出行事などは自粛していますが、戸外活動ができない分ホーム内で楽しめることを模索し各ユニットの職員が連携して日々取り組んでいます。昨年度末に全職員の意見を取り入れ、「MORE SMILE～笑顔あふれるあたたかな支援～」を今年度のスローガンに掲げ、ホーム内で季節行事を通じて利用者、職員共に笑顔が増えるように取り組んでいます。職員と利用者の関係も良好であり、ホーム内での楽しみを通じて多くの笑顔が溢れる支援に力を入れています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に企業理念の唱和をし、共有している。事業所の理念も事務所に掲示しており、定期的に確認して実践できるように努めている。	MORE SMILE～笑顔あふれるあたたかな支援～を今期のスローガンに掲げ事業計画書に明示し事務所への掲示により職員間で共有しています。スローガンは全職員から意見を募り決定しています。また会社の企業理念、運営理念についても毎朝の朝礼時に唱和しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナの影響で地域行事等が開催されていないが、散歩の際には地域の方と挨拶をしたり、近所のお店に買い物に行くなどして交流を図っている。	令和2年9月現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域との交流については実施していませんが、感染症拡大以前は、自治会行事への参加や認知症カフェへの参加、太鼓や民謡、手品などのボランティアと交流し地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は新型コロナの影響で運営推進会議や認知症カフェ等が中止となり、認知症ケアについての報告等を行う機会がない状態である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は運営推進会議が中止となっているが、現状や取り組みについてはご家族に書類を送付し、要望や意見があれば取り入れ、サービス向上に活かせるようにしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議の開催については書面開催として、職員及び利用者状況や運営状況、活動の様子等を書面にまとめ構成メンバー(市の担当課、利用者家族、地域関係者等)に配布をして意見を確認しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上相談がある際には、担当の方に連絡している。	市の担当課との連携では、新型コロナウイルス感染症対策においては、マスクの提供を受けたり、ホームの取り組みについてFAXでの確認等を通じて連携しています。また運営上確認が必要な事項についても担当課へ連絡を入れ適切な助言を頂くことができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待に関する研修を年2回実施している。また、2か月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、各ユニット内の不適切なケアについて職員に正しく理解できるように周知し、実践している。	身体拘束をしないケアの実践に向け2ヶ月毎ホーム内で身体拘束廃止委員会を開催し、各ユニットの現状をホーム長、ユニットリーダー、計画作成担当者間で確認しています。さらに身体拘束廃止、虐待防止研修をホーム内で実施し職員の意識を高め不適切ケア防止につなげています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行い、理解できるように努めている。また身体拘束廃止委員会で上がった内容に関してはユニット会議等で周知して、適切な支援ができるように努めている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修を通して権利擁護の制度について学ぶ機会はあるが、実際に活用することはできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望は、電話や面会の際に伺い、スタッフ間で情報共有して支援に取り入れるようにしている。利用者の要望は日常会話の中から汲み取り、支援に繋げるようにしている。	家族からの意見や要望については面会に訪れた際や電話連絡時に確認をしています。運営に関しての要望等は出ていませんが表出された際には迅速に対応する形としています。利用者からの意見や要望等については日常会話から収集し日々の生活の中で反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見が挙がった際には、話を聞くようにしている。またユニット会議や個別の面談を通して意見を聞く場を設けるようにしている。	年2回定期的にホーム長が職員と個人面談を実施しているほか、職員個々の状況に応じて個別の面談も適宜行っています。面談以外にもホーム長から日常的に職員に声をかけ、不安や悩み事などの早期解決に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与査定の評価を行い、各スタッフの課題や状況を把握している。また管理者によるフィードバックも行い、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の現在の状況にあった社内の研修参加や、外部研修にも参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での研修や親睦会を通して、他事業所の職員と交流し、情報交換する機会を設けている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の会話や様子を元にアセスメントを実施している。また個人の状態に合わせて安心して生活できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する際にご家族の不安や要望を確認しながら情報交換・共有を行い、サービスに繋げ、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する際にご本人やご家族の要望を把握してアセスメントを行い、「その時」に必要なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にはご自分で出来る事を尊重し、共に生活をするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、日々の様子を伝えて、情報を共有するようにしている。またご家族とご本人との時間も大切にできるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は外出が制限されており、馴染みの場所へは行けていないが、ご友人等が面会に来られた際にはゆっくりと過ごせるようにしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、馴染みの場所への外出等は控えていますが、感染症拡大以前は友人が訪ねに来たり、以前住んでいた場所まで個別でお連れする等、馴染みの関係が途切れないように取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様の間に入り、利用者様同士でコミュニケーションが取れるように努めている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば電話などで連絡を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや意向については、日頃の会話や行動等から把握するようにしている。意思疎通が難しい方でも、会議等で話し合い、利用者様主体の支援を考えるようにしている。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の生活については入居前の情報やご家族、ご本人との会話の中から把握し、支援に繋げられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りはケアカルテ等の記録類を活用して情報を把握するようにしている。状態の変化があれば担当者会議で検討し、利用者様の現在できることを確認するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成や更新時には担当者会議でスタッフの意見、ご本人やご家族の要望、主治医の意見を踏まえたうえで作成している。また、目標に対してのモニタリングを行い確認している。	ケアプランの作成および更新時にはユニット会議の中で担当者会議を開催し、職員からの意見のほか、利用者本人や家族、主治医の意見も総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標は毎月のモニタリングで利用者の満足度を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援についてはケアカルテに記入して情報共有している。また変化や気づきがあればユニット日誌や申し送りでも共有し、状態に応じた支援ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況やニーズに対してすべて対応できるわけではないが、可能な限り対応できるようにしている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近所の公民館やボランティアの方に来てもらったりと地域資源を活用していたが、最近では中止になり施設内での関わりになってしまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医療機関の主治医による月2回の往診があり、特変や緊急時に連絡できる体制を整えている。またご家族対応の受診の際は状態について情報共有を行い、支援に反映するようにしている。	ホーム協力医療機関の主治医による往診が月2回あり必要な医療を受けられる体制を築いています。訪問看護も週に一度来所され、主治医とも連携が取れています。また本人、家族の希望を大切にして入居前のかかりつけ医を継続することも可能としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際に利用者様の健康状態や経過報告を行い、相談やアドバイスを受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院以前の状態の経過や様子について情報提供している。また、入院中は面会や病院関係者と情報交換を行い、退院後の生活や早期退院に向けて対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合の対応について説明し、意向を確認している。実際に重度化した場合には再度ご意向を確認し、主治医・看護師・ご家族と連携して終末期まで取り組んでいける体制を取っている。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。看取りケアについては家族の要望及び主治医の見解なども踏まえ慎重に見極めていく姿勢としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で緊急時の対応について学ぶ機会を設けている。また緊急時フローのマニュアルを事務所に掲示しており、日頃から確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(昼・夜間想定)を行っている。また避難場所や経路を確認し、日避難方法を身に付けられるように努めている。	令和2年7月に水害を想定した避難訓練を実施し簡易担架を使用した実践的な訓練を実施しています。さらに同年9月に地震及び火災を想定した避難訓練の実施を予定しています。災害時のフローについても事務所に掲示し職員全体に周知しています。	

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に対して不適切なケアがないかどうか、身体拘束廃止委員会にて振り返りをし、気になることがあれば注意を呼び掛けるように努めている。	利用者に対して不適切な対応が発生していないかについては2ヶ月毎実施している身体拘束適正化委員会の中で確認しています。また、全体やユニットミーティングを通じての振り返りなどを通じて不適切ケアの無い体制づくりに力を入れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の活動の中で、ご本人の思いや希望を把握し尊重するようにしている。コミュニケーションが難しい方でも表情等からくみ取り、支援に繋がれるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体の支援を意識しているが、忙しい時や時間に追われてスタッフ都合の支援になってしまう時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出する際にはその日の気候に合わせた服装を選んだり、整容を行っているが、気づくと衣類が汚れていたりする事もあるので、基本的な整容を意識するよう周知している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好物や季節を感じられるメニューを取り入れて食事の時間が楽しみなものとなるように努めている。また準備や片付けも利用者様と一緒にやっている。	食事の準備や後片付けには利用者の体調を考慮しながら職員と一緒に取り組めるように支援しています。食事メニューも利用者の意向も汲み取りながら決めていきます。感染症の影響で外食はできませんがホーム内での行事食を通じて食の楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は一人一人の適切な量を把握して摂取できるように促している。また個人の機能に応じて食形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて、声掛けや見守り、介助を行っている。また訪問歯科とも連携し、介助の方法等アドバイスをもらい、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンについてはケアカルテに入力し排泄パターンを把握しながら、必要な方にはトイレの声掛けや定時のトイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、乳製品や水分量を強化するなどして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まってはいるが、入浴の意欲が高まるような声掛けや、ゆず湯等季節を感じられるような取り組みをしている。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。入浴状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態を確認しながら、疲労感等がみられた場合には休憩してもらうように促している。また、夜間にゆっくりと休めるように日中の活動を意識して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の全ての薬について理解できているとは言えないが、注意事項はユニット内で共有し確認している。また服用後の様子については主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事活動では利用者の得意な事を見つけてその方の役割を持ってもらえるように支援している。また毎日の散歩等で気分転換を図るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は遠くまでの外出行事は実施できないが、毎日の散歩ではご本人の行きたいルートで散歩してもらっている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出行事は実施していませんが、ホーム周辺の散歩には個別にお連れしながら一日一回は戸外に出かけられるように努めています。近隣には散歩コースも多く、周辺の環境を生かし、感染防止対策を講じた上で散歩に出かけています。	



グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から預かり金として事務所で保管しているが、最近では利用者様が所持し買い物へ行くことはできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等は利用者様からの要望があれば行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングには季節の花や行事で作成した創作物を作って掲示しており、会話が弾む空間となるようにしている。	利用者が集うリビングルームは華やかな装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う利用者様同士で過ごせるように食席なども工夫している。また時には居室でゆっくり過ごせる時間も作れるように促している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室にはご家族が持参されたものや馴染みのものを置いている。ご家族に相談のもと、安全面から配置を変えることもあるが居心地よく過ごせるよう意識している。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的に行い、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になるものは置かず、動線の確保を意識している。また居室からリビングやトイレへご自分で行けるように、見守りや付き添いを行う等して安全に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1293200067		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら当代島(2F)		
所在地	千葉県浦安市当代島2-22-29		
自己評価作成日	令和2年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和2年9月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今期スローガンを「MORE SMILE～笑顔あふれるあたたかな支援～」とし、昨年度に引き続き、ご利用者が安心して過ごせる居場所づくりを目指し、より多くの笑顔がみられるように取り組んでいます。コロナ感染症の影響で、外出や地域活動への参加・ボランティアさんにきてもらうことができなくなっていますが、ご利用者の体力・気分低下に繋がらないよう、感染症予防に配慮しながら、毎日一日一回の散歩は今まで通り行っています。また、日々の支援においても、しっかりとした日課の元、ご利用者に適した支援を行えるようスタッフ同士がコミュニケーションを密にし、情報共有を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設10年を迎え、地域とも良好な関係を築き運営を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、これまで前向きに取り組んできた地域との関りや外出行事などは自粛していますが、戸外活動ができない分ホーム内で楽しめることを模索し各ユニットの職員が連携して日々取り組んでいます。昨年度末に全職員の意見を取り入れ、「MORE SMILE～笑顔あふれるあたたかな支援～」を今年度のスローガンに掲げ、ホーム内で季節行事を通じて利用者、職員共に笑顔が増えるように取り組んでいます。職員と利用者の関係も良好であり、ホーム内での楽しみを通じて多くの笑顔が溢れる支援に力を入れています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所スローガンを職員からのアンケートをもとに作るとともに、事務所に掲示し共有している。	MORE SMILE～笑顔あふれるあたたかな支援～を今期のスローガンに掲げ事業計画書に明示し事務所への掲示により職員間で共有しています。スローガンは全職員から意見を募り決定しています。また会社の企業理念、運営理念についても毎朝の朝礼時に唱和しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	引き続き地域のスーパーや米屋などで毎日の買い物を行い、散歩時なども交流を図っている。	令和2年9月現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域との交流については実施していませんが、感染症拡大以前は、自治会行事への参加や認知症カフェへの参加、太鼓や民謡、手品などのボランティアと交流し地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今期はまだ行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今期はコロナの感染症予防のため、運営推進会議の開催を見送っているが、報告事項を各所に郵送し、意見を募っている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議の開催については書面開催として、職員及び利用者状況や運営状況、活動の様子等を書面にまとめ構成メンバー(市の担当課、利用者家族、地域関係者等)に配布をして意見を確認しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	懸案事項などあるときは、早めに連絡しアドバイスをいただいたりして連携を取っている。	市の担当課との連携では、新型コロナウイルス感染症対策においては、マスクの提供を受けたり、ホームの取り組みについてFAXでの確認等を通じて連携しています。また運営上確認が必要な事項についても担当課へ連絡を入れ適切な助言を頂くことができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待の施設内研修を年2回実施するとともに、2か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、全体会議にて職員にもおろしている。運営推進会議でも報告し、外部の方の意見もいただいている。	身体拘束をしないケアの実践に向け2ヶ月毎ホーム内で身体拘束廃止委員会を開催し、各ユニットの現状をホーム長、ユニットリーダー、計画作成担当者間で確認しています。さらに身体拘束廃止、虐待防止研修をホーム内で実施し職員の意識を高め不適切ケア防止につなげています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の施設内研修で学ぶ機会を持ち理解を深められるよう努めている。日々の支援上のことについては身体拘束廃止委員会にて都度検討している。		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて制度に関して学ぶ機会はあるが、活用する対象者がおらず、活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望については、面会時や電話で伺ったり、運営推進会議報告時に伺ったりして意見を反映できるように努めている。利用者からの要望については、日々の会話の中から引き出している。	家族からの意見や要望については面会に訪れた際や電話連絡時に確認をしています。運営に関しての要望等は出ていませんが表出された際には迅速に対応する形としています。利用者からの意見や要望等については日常会話から収集し日々の生活の中で反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議・個別面談などで意見・提案を聞く機会を設けている。また、日々の会話の中でも話を聞くようにしている。	年2回定期的にホーム長が職員と個人面談を実施しているほか、職員個々の状況に応じて個別の面談も適宜行っています。面談以外にもホーム長から日常的に職員に声をかけ、不安や悩み事などの早期解決に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の賞与査定、昇給査定時にフィードバック面談を行っている。表彰制度も設け、向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合った社内での研修参加や外部研修にも参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナのため行えていないが、社内での研修やイベントを通して交流できる機会を作っている。		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、困っていること、不安なこと、要望を伺い、入居後の生活ができるだけ安心して過ごして頂けるように努めている。入居後もアセスメントを実施し本人の意向にあった生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご家族の不安・要望を確認し、入居後も密に連絡を取り合うことで意見交換や情報共有し安心していただける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を把握し、また職員の情報を共有してアセスメントを行い、その時に必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身のできることは尊重し、家事活動などにも参加していただき、ともに生活を行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設された際には日々の様子を伝え、出来事を共有している。また本人と家族の時間も大切にできるようにしている。病院受診時など、家族にも協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナの関係で友人の面会や馴染みの場所に行くことができていない。地域の新聞や情報誌などをお見せし、会話のきっかけとしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、馴染みの場所への外出等は控えていますが、感染症拡大以前は友人が訪ねに来たり、以前住んでいた場所まで個別でお連れする等、馴染みの関係が途切れないように取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の間に入り、利用者同士でコミュニケーションをとりやすいようにしたり、席の配置を考え関係性が築ける様努めている。		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応し、電話などで連絡を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向については、日々の言動や記録から把握するようにし、アセスメントを取ってケアプランに反映して支援できるようにしている。会話が難しい方であっても、担当者会議などで検討し、利用者主体の支援をおこなえるようにしている。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについては、入居前の情報や、家族・本人との会話の中から把握するようにして支援につなげられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録類を活用して状態把握に努めている。変化があればモニタリング、担当者会議で話し合い、利用者の今できることを確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成・更新時には家族や他職種の見解を伺ったうえで、担当者会議で職員からの意見を話し合い、ケアプランを作成し、毎月のモニタリングで確認している。	ケアプランの作成および更新時にはユニット会議の中で担当者会議を開催し、職員からの意見のほか、利用者本人や家族、主治医の意見も総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標は毎月のモニタリングで利用者の満足度を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果、気づきについては電子記録に残し共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や課題に対して、可能な限り対応できるようにしている。		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店や公民館、お散歩バスなど活用している。毎日の散歩には緑道や川の土手などを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医療機関の主治医による月2回の往診があり、緊急時には連絡できる体制を整えている。変化があるときには家族に連絡し、意向をうかがうようにしている。	ホーム協力医療機関の主治医による往診が月2回あり必要な医療を受けられる体制を築いています。訪問看護も週に一度来所され、主治医とも連携が取れています。また本人、家族の希望を大切にして入居前のかかりつけ医を継続することも可能としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時には健康管理連携記録を用いたり、口頭で報告を行い、アドバイスを受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院前の情報や看護サマリーを提供。入院中は面会や病院関係者との情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について説明、意向を確認している。実際に重度化した時には、再度意向を確認し、主治医・訪問看護・家族と連携して、同じ認識の下取り組んでいける体制をとっている。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。看取りケアについては家族の要望及び主治医の見解なども踏まえ慎重に見極めていく姿勢としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については施設内研修で学ぶ機会を設けている。また、緊急時のフローマニュアルを事務所に掲示しており、日頃から確認できる世にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の地震・火災想定避難訓練(昼・夜間想定、一回は消防立ち合い)に加え、年1回水害想定避難訓練を実施。災害時フローを事務所に掲示している。	令和2年7月に水害を想定した避難訓練を実施し簡易担架を使用した実践的な訓練を実施しています。さらに同年9月に地震及び火災を想定した避難訓練の実施を予定しています。災害時のフローについても事務所に掲示し職員全体に周知しています。	

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修で年2回身体拘束廃止・高齢者虐待防止について勉強するとともに、2か月に1回身体拘束廃止委員会にて懸案事項をあげ、フィードバックを行うことで不適切なケアの芽を摘めるようにしている。	利用者に対して不適切な対応が発生していないかについては2ヶ月毎実施している身体拘束適正化委員会の中で確認しています。また、全体やユニットミーティングを通じての振り返りなどを通じて不適切ケアの無い体制づくりに力を入れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉・訴えだけでなく、行動パターンを把握し、スタッフ間で情報共有していくことで、思いを察し、選択肢を提案して自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人のその時の思いを受容し、希望に沿えるようにしている。その時に叶わない場合は、代替え案や希望に沿える時を具体的に伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のモーニングケア時や外出前に、その方の嗜好や感じ方にも十分に配慮しながら整容・服装を整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみについては、行事で季節の食材を取り入れたり、時には宅配弁当を頼んだりしている。日々の食事も準備・片付けなどご利用者と一緒に行っている。	食事の準備や後片付けには利用者の体調を考慮しながら職員と一緒に取り組めるように支援しています。食事メニューも利用者の意向も汲み取りながら決めていきます。感染症の影響で外食はできませんがホーム内での行事食を通じて食の楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を取って、過不足についてはスタッフ間で申し送りをして、適切な量を摂って頂けるように努めている。食形・介助についても一人一人に合わせ行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、本人の状態に合わせて、声掛け・見守り・介助にて清潔保持ができるようにしている。職員は毎月1回の口腔ケア研修にて知識・技術を高めている。		



グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、一人一人の排泄パターンを把握し、必要なお利用者には定時の声掛け・誘導を行っている。また、排泄場所は基本的にトイレでできるようにしている。	利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物では、毎朝ヨーグルトを提供したり整腸飲料を取り入れたり、繊維質の食材をなるべく取り入れたりしている。運動面では、毎日の体操・散歩を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日はある程度決まってはいるが、一人一人の体調や気分に合わせて、時間・日に変えて安全に入浴していただける様に臨機応変に対応している。また、しょうぶ湯やゆず湯などを行い、季節を感じていただけるようにしています。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。入浴状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は休憩時間と活動時間のメリハリをつけ、できるだけ日中の活動量を増やし、夜間は安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、服薬ルールを作り、ダブルチェックを行い、間違えの内容にしている。また症状の変化のある場合は直ちに訪問診療医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割はアセスメントし、できることを日々行ってもらっている。また、楽しみ事としてレクを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防のため、外出行事などはできなくなっているが、毎日の散歩は出かけており、本人の希望を聞き散歩コースを決めている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出行事は実施していませんが、ホーム周辺の散歩には個別にお連れしながら一日一回は戸外に出かけられるように努めています。近隣には散歩コースも多く、周辺の環境を生かし、感染防止対策を講じた上で散歩に出かけています。	

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金をご自分で所持したり使ったりしている方はいないが、その方に合わせて必要であれば行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があるときに、ご家族に電話を取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、安全・清潔感を第一に華美になりすぎず、季節感が感じられるように花や季節のものを飾っている。音・光・温度はもちろんのことにおいにも配慮している。また利用者の導線上には余分なものを置かず、安全面にも配慮している。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で落ち着いて過ごせるように、テーブル・ソファなど配置している。配置は利用者の状況に応じて適宜変更し、利用者全員が思い思いに過ごせる場所づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居前の生活が継続して行え、居心地よく過ごせるように、使い慣れた家具や馴染みのものを持ち込んでいただいたり、それぞれの嗜好に合った飾りつけをする、などしています。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にさりげない目印を付けるなどし、自分の居室をわかりやすくしたり、手すりのついた見通しの良い廊下で見守れるような構造になっている。		